

東日本大震災 被災地訪問報告

Ecoフレッド

Vol.26

【発行】平成二十三年十二月
富山県鑿井協会
 〒930-0999 富山県新庄町一丁目十九番二号
 ☎(076)441-4257
 ☎(076)441-4287
 Fax (076)441-4287
 URL: http://www.atw.ne.jp/~tomisaku/
 E-mail: tomisaku@atw.ne.jp



「がんばろう日本!!」復旧・復興に頑張る東北—被災地を訪れて

私たち、富山県鑿井協会は地下水を採取する「井戸」をつくる企業8社とそれに関連・賛同する支援企業21社から成る団体です。

日本の根幹をもゆるがしかねない「東日本大震災」により尊い命を奪われた多くの方々に心より追悼の意を表するとともに、最悪は免れたものの財産を失い、心に大きな傷を残し、復旧・復興に頑張っている被災者の方々に深い敬意を表します。

さて、被災者の方々に私たちの業界が支援できる事は、専門分野を活かし、「清浄・豊富」な地下水を提供する事だと考えます。

しかしながら(8月)現在、被災地の詳細な情報を得る事もできず、何をどのようにすれば被災地の力になれるのか、判らないまま日々が過ぎ去っています。この間にも不都合、不便は被災者の方々に重く、のしかかっています。

これらの状況を考え、微力ながら支援の一環として「支援物資をお届けする」事としました。また、直接被災地を訪れ、被災者の方々とふれ合うことにより「被災地では何が困っているのか?」今後の支援のあり方が見えてくると思います。今回の被災地訪問が、私どもの地域でどのような備えが必要で、当協会として何が出来るかを考えるきっかけにしたいと思います。

本年三月十一日、午後二時四十六分頃、宮城県沖を震源とする、マグニチュード九・〇の地震が発生しました。地震の規模は、日本観測史上ともに稀に見る大きさになったのと併せ、太平洋沿岸を襲った津波の被害が甚大なものとなりました。

当協会では、継続的な支援が必要と考え、会員、賛助会員へ募金を募り、富山県生活環境文化部男女参画・ボランティア課、富山県社会福祉協議会のご協力のもと、協会員五名にて、先の八月二日に宮城県仙台市の被災地へ訪問、現地にて支援に当たっている特定非営利法人「全国コミュニティライフサポートセンター」へ支援物資を届け、被災状況を視察して来ました。その状況をご報告いたします。



【支援物資のお届け】
 富山県生活環境文化部男女参画・ボランティア課を通して、富山県社会福祉協議会からの紹介をいただき、特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンターの高木理事に物資をお届けしました。

また被災地が少しでも早く復興できるよう、私たちも今後出来るだけ支援して行きたい旨を伝えました。

宮城県仙台市青葉区木町
 特定非営利活動法人
 全国コミュニティライフサポートセンター
 (福祉・看護の専門職員の派遣や、支援物資の配布等被災地支援に取り組んでいる法人)
 (お届けした支援物資)
 リンスインシャンプー、ボディシャンプー、ペーパータオル、弁当箱、自転車、虫よけ薬(ムヒアルファS、ムシベールe)



(被災地を訪れて)
 今回私たちは仙台市街地より市内で一番津波被害の大きかった仙台市荒浜地区へバスで移動しました。バス内から仙台市街地を見ていると、道路舗装の修繕跡や全半壊したビルなど、あちらこちらに被災状況が見受けられました。(左 航空写真参照)

荒浜地区は津波警戒区域であり、日頃からの防災対策はされていたというものの、家や車が流れ瓦礫の山が散乱し、また約一〇〇〇戸の住宅団地が、ほとんど基礎部分しか残っておらず、閑散、荒涼、言葉にならないくらい悲惨な状況が胸がつまる思いでした。偶然にも、津波に流され被災したガソリンスタンドの従業員が後片付けに來ていて、当時の話をしてくれました。

『自分は三月十一日は、たまたま休日で居なかった。仲間の話によると、地震が起きて四〇〇五〇分後に第一波が海岸から約四〇〇メートル位の用水まで来ておさまった。安心したのも東の間、数分後には第二波が押し寄せ、あつという間に全てが飲み込まれた。二人の仲間を失った...!第二波は海岸から約三・五キロメートルも浸入した。有料道路(仙台東部道路)の盛り土が防波堤となつて、せき止められた。』

また、(地区にある)荒浜小学校は建設当初、正面玄関(窓側)が海に向かって建設される予定でしたが、当時の校長先生の一言で、津波対策として学校の向きを九〇度変えた事が効を奏し、津波の被害が小さく、今回の被災時の避難所となつたそうです。

視察目的のひとつは「私たち業界で支援できることを探す!」ということにありましたが、視察を終えて思うことは「東北を訪れること」「コミュニケーションを図り、一緒に体感すること」これが一番の支援なのではないかと感じました。

東北の人は「頑張っている!」「前向きだ!」「ねばり強い!」。視察の道中、「元気です。東北!」という轍を多数見かけました。他県から訪れる人々へのメッセージでしょう。ほんとうに「強い!」東北...。これらの声より、私たちは「支えたい」という気持ちが強くなり「元気」と「勇氣」を頂きました。

被災地の声を、富山の皆様をはじめ一人でも多くの人に届ける事、これも支援のあり方のひとつだと思います。

私たち富山県鑿井協会は、これからも被災地との絆を持って、支援し続けたいと思います。

津波到達高さ(校舍3階)

荒浜小学校

海岸付近に残っていた住宅

津波第一波

津波第二波

津波警戒区域看板

津波で流されたコンビニエンスストア跡

基礎しか残っていない住宅団地

点在している瓦礫

被災したガソリンスタンド

